

市民社会チャレンジ基金 第24期助成団体を発表



▲受賞団体のみなさん

■伊藤保子さん(特定非営利活動法人全国小規模保育協議会理事)

15年間、誰もが使いやすい保育園を作ってきて、地域にあった小規模保育も制度になりました。小学校区に一つ公定価格で保障される小規模保育を作り、そこが自主事業としてお母さんたちの相談にのり、一時保育もできるようになれば、子どもを産んでよかった、子育てしやすかったと言える地域になるのではないかと思います。



■大西由紀子さん
(東京・生活者ネットワーク代表委員)

安倍政権による立憲主義の破壊、政治に対する不満・鬱憤を持つていると思いま

者ネットは全精力をかけて大河原まさこさんの勝利を勝ち取っています。全国の知人・友人・親戚に声をかけて、本当の政治を取り戻すために頑張っていきましょう。

メッセージ

神奈川ネット 2016年新春のつどい

未来につなぐ働き・暮らし

2016年新春のつどいを開催しました。地域で活動を進めている市民団体をはじめ、労働組合・首長・政党から多数出席いただきました。皆さんからは、現政権の暴挙に対し政治を変えていくために、ネットへの期待と連帯のメッセージをいただきました。

第24期市民社会チャレンジ基金助成団体の発表も行いました。各団体の未来を切りひらく活動は、地域社会に大きな変化をもたらしています。



前参議院議員
大河原まさこさん

間市議会議員選挙の候補予定者 加藤陽子さんからも決意表明があり、2016年市民社会を強くする活動に向け、元気にスタートしました。

2016年新春のつどいを開催しました。地域の人を助ける活動を続けています。市

民事業を応援することで、地域のことを学ぶことも必要です。



■豊永眞知子さん
(神奈川W・Co連合会 理事長)

ワーカーズ・コレクティブは地域にサービスや物を提供してきました。これからも様々なニーズに応えられるワーカーズを広げていきます。神奈川ネットと一緒に活動して



■荻原妙子さん
(公益財団法人かながわ生き活き市民基金副理事長)

地域における様々な課題を、自分たちでお金出し合つて自分で解決していくため

に、温かいお金の流れを作り、寄付文



ます。大河原まさこさんのチャレンジにも励まされます。私たちもこれまで以上に活動を広げていきます。

■元木知子さん
(NPO法人フォーラムアソシエ運営委員長)

に、それを制度に変える活動をしています。大河原まさこさんのチャレンジにも励まされます。私たちもこれまで以上に活動を広げていきます。

、それを制度化を広げ、神奈川を変えていきます。一緒に一步踏み出していく

いきましょう。

い。一緒に一步踏み出していく

い。一緒に歩み出していく

い。一緒に歩み出していく

食品ロスをなくす 取り組みを進める

県議会

佐々木ゆみこ(ネット宮前/県議)

今年多くの団体の賀詞交歓会に参加しました。その宴席にはたくさんの料理や飲み物が並びます。しかし、会の終わりに食べ残しがあることも少なくありません。多くの会に参加し、食べるとの出来ない人がいる社会の格差と食品廃棄の問題について、あらためて考えさせられました。

食品廃棄量は年間1,900万トン。そのうち、まだ食べれるのに廃棄されてしまう食品は年間500~800万トンもあります。大量の食品が破棄される背景には、賞味期限の3分の1を経過した食品は流通には乗せないとルールがあります。さらに、クリスマスやバレンタイン商戦で大量に流通するパッケージ商品は行事が終わると賞味期限に限らずメーカーに返品され破棄されます。宣伝や見た目、賞味期限や消費期限に踊らされることなく消費行動を変えるための啓発が必要です。

アメリカでは食べ残しを持ち帰る「ドギーバック」がレストランなどに用意さ

れているそうです。また、余っている食べ物と食べ物に困っている人をつなぐフードバンクの活動も50年の歴史があります。

先日「フードバンクかわさき」の活動を聞きました。2011年神奈川県内で餓死した人は120人に上ります。病気や栄養失調も含まれますが、食料不足による人もいます。貧困は見えにくく、子どもだけでも食べさせようと必死になり、親である大人の貧困がより深刻となるケースもあるようです。フードバンクでは、まだ食べられるのに処分されてしまう食品を、食べることに困っている人や施設に届ける活動を行っています。この活動のメリットは、直接的な受益者だけに留まりません。企業にとっては廃棄コスト・環境負荷が削減でき、行政にとっても地域のセーフティネットを作ると共に、食品ロスの削減や財政負担の軽減に繋がる活動です。今後も、こうした市民活動を後押しする政策・制度を提案していきます。

編集後記

▼高市総務相が、テレビ局などが政治的公正を定めた放送法違反を繰り返した場合電波停止もあり得ると発言した。最近、政権に辛口のコメントをする各局のコメントーターも次々と降板させられている▼大手マスコミが政権批判を自主規制するようでは、言論統制に繋がる。政治と力ねやイクメン議員の問題などを暴くのが一部週刊誌だけでは、いつか来た道を辿るのではないかと不安だ。表現の自由を守るために、私たちは発言を続けていく。

(C・M)

神奈川ネットは、
地域政党です。
政治に直結しています。
国の政党が、地方の政治まで
コントロールするのではなく
多様な地域政党が政策を競い
住みやすいまちをつくる
社会をめざします。



今月の神奈川ネット

- 市民の生活・活動法律相談: 2/17・3/16(水)
- 第15回運営委員会: 2/23(火) ■総会運営委員会: 2/26(金) ■第41回総会: 3/5(土)

ネットと「共に生きる」学習会をしています。朝鮮学校の問題だけではなく、様々な文化や民族的背景を持つ人たちと共に生きるということを学んでいます。高齢者や障がい者、独りで子育てをしている人など、様々なマイノリティの人たちと共に生きていける地域づくりのために、ネットワークを作り出していく